



東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

2017～18年度 テーマ

継続は力なり！
プロバスクラブの道に終わりなし
生涯現役でクラブライフを楽しもう

編集・発行：情報委員会



第 267 回例会

日 時：平成 30 年 1 月 11 日(木) 15:00～19:00

場 所：八王子エルシィ

出席者：50 名 出席率 80.6%

(会員総数 67 名 休会 5 名 欠席 12 名)

1. 開 会

山口例会委員長

第 267 例会を開催します。

2. 会 長 代 行 挨拶

馬場 副会長

皆様、新年あけましておめでとうございます。今年は「戌年」で、“結実”の年だそうです。会員の皆様も健康に留意され、実り多き良き一年となることをご期待申し上げます。



本日、武田会長は奥様の通院に付き添われており、お休みされています。私は会長から要旨を伺っており、代行して挨拶を申し上げます。

今年度も半ばを過ぎました。今までの皆様のご支援ご協力に感謝申し上げます。下半期は生涯学習サ

ロンを中心とする諸活動があり、更なるご支援ご協力をお願いする次第です。

最初は会員動向であります。残念ながら 142 番・白柳和義会員が昨年末に仕事の関係で退会され、又 135 番・山崎光子会員が義母様の介護のために今月 1 日から当面の間休会されます。山崎情報委員長の休会に伴って、理事会では年度末まで田中信昭副委員長に委員長代行をお願いすることになりました。田中信昭様には急な役目ですがよろしくお願い致しますと共に、皆様のご理解とご支援をお願いします。また会員総数は 67 名、休会者は 5 名となりました。会員動向については、例会の欠席者が多い状態が続いており、当クラブが大きな曲がり角に来ていることが懸念されます。新会員募集も容易ではない状況にあり、改めて会員諸氏のご協力をお願いする次第です。

次に昨年 9 月に実施したアンケートの件です。集まった内容を集約し分析中ですが、ご意見が多岐にわたるため今暫く時間を頂く必要があります。詳しくは幹事報告で触れますのでご理解をお願いします。

最後に、ハッピーコイン関連です。上半期は移動例会を除く 5 か月分の実績ですが、例年を若干下回っており、皆様の今後のご協力をお願いする次第です。

今年の冬は、寒さも一入で、風邪もこれからが流行期です。会員諸氏におかれては、一層健康に留意されて、2 月例会から始まる月 2 回の活動にはお元気でご参集ください。

3. ハッピーコイン披露

馬場副会長からハッピーコイン 11 件の披露があった。(5～6 ページに掲載)

4. バースデーカード贈呈

馬場会長代行より池田会員手作りのバースデーカードが 1 月生まれの会員に贈られました。



左から河合、下田、佐々木秀、下山、寺田、(武田、大野聖、米林会員はお休み)の8会員(敬称略)

5. 卓話

「自動車工業の今むかし」

— 困難を乗り越えて — 持田律三

自己紹介ですが、埼玉県深谷市で生まれ育ちました。深谷は渋澤栄一(明治の資本主義の基礎をつくった人)の生まれた土地で、ネギ、煉瓦などでも有名です。



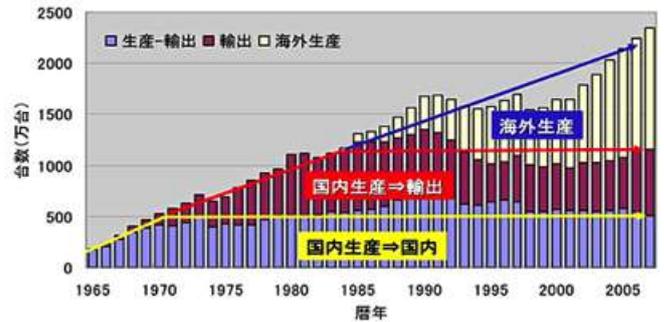
私は大学を卒業するとある縁からOBARAという会社に入社します。そこは抵抗溶接機器を製造するメーカーでした。抵抗溶接とは大電流1万アンペアを流し、15サイクル(1秒の1/3)という短時間で300キロの圧力を加えることで「ジュールの法則」から生じる抵抗で2枚の鋼板が瞬時に溶けて接合されるものです。当時は手動式溶接機が主流で自動車の溶接に使われていました。

さて、車の日本での生産は蒸気機関を使って1904年山羽式蒸気自動車がつくられたのが初めてであるが、50年後、中島飛行機を母体とする富士重工が大衆向けのスバル360を生産販売をした。70年代になると、国内自動車生産は急激に増えて国内需要を満たし輸出増大に進む。この時期になると輸入国での関税障壁に悩み、部品を輸出して現地で組み立てるといったノックダウン生産が始まる。これにより、自動車会社は海外諸国へ組み立て技術を指導することから海外との交わりが一気に広がる。

80年代になると米国向け輸出も増大し、北米での錆の問題がクローズアップする。そこで、溶接機器メーカーも自動車メーカーと一緒に新しい電極材料を開発したりして防錆問題を乗り越える。

同時に起きてきた貿易摩擦に対しては現地生産を開

日本の自動車生産台数の推移
日本自動車工業会編、日本の自動車工業1966~2008から作成



始、現地雇用・調達・製造をすることで乗り切った。

2000年代になると、韓国勢などの進出で国際価格競争が激しくなった。その切り札として、①車種の制限、②プラットフォームの共用、③タクトタイムの削減が実施された。特にタクトタイムは1分から54秒、さらに48秒というような凄まじい無駄排除の製造ラインが完成されてくる。溶接機器も短時間生産に対応する高速化対応の技術革新が要求されそれに応えていった。コスト削減のためには治具費用の削減も固定治具の廃止、ロボット化で対応した。

2010年になると、環境問題が浮上した。ガソリンを使わないのが良いことだ!ということになった。燃費改善には車体の軽量化である。ボディーの鋼板のハイテン化、アルミ化、樹脂化が進む。しかし、同時に安全対策として側突防止のために新たにブラケットをボディーに付けることになり重量軽減と相反する。更に、CFRP(硬化樹脂)の採用が進むことになった。この時期に円高が猛威を振るった。80円台であった。これらを乗り越えるために製造ラインは完全自動化を進めた。それにより、現在の自動車製造ラインはすべてロボットにより自動化されている。自動車会社で人がいるのは、開発、管理、保全部門だけである。

最後に、車の成長を振り返ると、現在全世界で約9千万台の生産をしているが、先進国の成長は80年



代から4千万台を維持してあまり変わらないが、車の急激に成長した要因は1千5百万台増の発展途上国と3千万台増の中国の躍進によるところが大きい。

今後はEV・AI化がさらに進んで行く。エンジンやシャフトメーカー、ガソリンスタンドは変貌を遂げなければならないが、AIにより交通情報網やそのルールづくりも喫緊の課題となる。

日本の自動車メーカーは開発と改善の弛まない努力をさらに進めて世界を牽引していくことと思う。

6. 幹事報告 内山幹事

12月20日に「アンケート」の集約をしました。その集約結果が皆様にお渡しした資料です。

回答者数は39名で回答率は67.2%でした。会費収入に見合う事業計画を立てるべきという意見が53.8%、不足分は会費の増額により補うという意見は38.5%でした。現状の活動内容については従来通りの活動をという意見が51.3%、活動内容を再検討すべきだという意見が46.2%でした。特別例会への補助については、従来の方法に戻すが43.6%、全額参加者負担でよいが46.2%でした。会費の値上げ幅については500円が41.0%、1,000円が35.9%でした。本部活動費を本部活動費と対外活動費に分けることについては、87.2%の方が賛成すると回答されました。その対外活動費は一定の枠を設けるべきということに66.7%の回答を得ました。また、全日本プロバスクラブとの対外活動には、予算を計上し、その範囲内で対応するとの回答が74.4%でした。

クラブ運営に関する意見については28通もの貴重なご意見をいただきました。この運営に関するご意見を基にクラブ運営をいかに進めていくかについて、理事会内で議論を重ね出来るだけ早い時期に結論を出し、皆様方にお知らせする努力をして参ります。いま暫くの時間をいただきたいと存じます。

7. 各委員会活動報告

(1) 例会委員会 山口委員長

例会の出席状況は出席50名、欠席12名、休会5名で出席率は80.6%でした。

(2) 情報委員会 田中副委員長

山崎情報委員長休会のため、今期末まで代行を努めることになりました。先刻メンバーが集まり、今後の進め方に付き協議し、新たな分担・編集方針も決定しました。本日は皆様のお手元に佐々木秀勝会員の

編集になるプロバスだより266号と山崎委員長編集の「第二回東日本ブロック交流会実施報告書」をお届けしました。やがて始まる「学習サロン」の抄録冊子の編集につきましても、より簡潔な方向でまとめるべく計画中です。ご協力をお願いします。

(3) 会員委員会 土井俊雄副委員長

会費の徴収につきまして皆様のご協力ありがとうございました。

(4) 研修委員会 竹元委員長

本日の卓話は、持田会員による「自動車工業の今昔」でした。大変興味深いお話しありがとうございました。

今回は、寺田会員による「消化器前編(咽頭、食道、胃)の働きと病気の治療法」です。

3月は、岩島会員による「Dr. 肥沼の眠るグリーンズエン市を訪ねて」。

4月は、寺田会員による「消化器後編(膵臓、胆嚢、胆道、小腸、大腸)の働きと治療法」を予定しております。皆様お楽しみに。

(5) 地域奉仕委員会 永井委員長

12月例会でお渡しした「生涯学習サロン希望テーマ選択表」の提出をお願いします。

「話し手」の皆様へ。経費削減のため、抄録集のページ数を少なくします。従来2ページに纏めていただいた講演内容を、1ページにさせていただきますのでよろしくをお願いします。

(6) 交流担当 浅川担当理事

今日これからの新年会に、多摩PC、日野PCのお客様が勢いいらっしゃいます。又来週には、日野PCでの新年会にも3クラブの方々が集まります。近隣クラブの楽しい交流の輪が、やがて全国のプロバスクラブに広がっていくよう皆様方のご協力をよろしくお願い致します。

(7) 「宇宙の学校」 P Jリーダー下山邦夫

前年度の「宇宙の学校」はプロバスだよりにもありますように、例年の規模でしたが、質的・内容的には進歩しています。纏めの後、報告いたしますが、皆様のご支援のおかげです。重ねて感謝いたします。現在29年度のまとめのレポート作成及び30年度の計画づくりの途上で、まだ会場、日程などの基礎事項が確定していませんので、今月ご報告できる事項はありません。来月には報告できると思います。

8. その他

★ シニア・ダンデーズは7月17日の「社会を明るくする運動」への出演に対して11月18日法務省より感謝状を頂きました。



「社会に役立つコーラス活動」素晴らしいですね。

9. プロバス賛歌斉唱

10. 閉会

馬場副会長

例会、お疲れ様でした。本日は欠席者が12名となり、出席者の中にも風邪気味の方がおられる様です。間もなく大寒ですが、健康に留意され2月例会にもお元気で出席されますようお願いいたします。

新年懇親会

平成30年の新年懇親会は根本照代会員と鈴木会員の司会で爽やかに始まりました。



馬場会長代行の挨拶

皆様改めて、新年おめでとうございます。本日、当クラブの武田会長は都合によりお休みを頂いており、副会長が代行して挨拶を申し上げます。

本日の懇親会には、友好クラブである日野プロバスクラブから奥副会長はじめ5名の方々、多摩プロバスクラブから澤副会長をはじめ5名の皆様ご出席を頂いており、歓迎申し上げると共に感謝申し上げます。

今年は、スポーツ界で冬季オリンピックやサッカーのW杯があり楽しみですが、一方では世界情勢は混沌として先が見えない状況です。また、株式の世界では成年をはやしておりバブルがはじける時期が近いとの予想もチラホラ見かける状況です。

その中であって私達は、この会を新年懇親会に相応しく、今年一年に夢と希望を託し“大いに語り、大いに楽しむ会”としたいものです。皆様、お楽しみください。

乾杯

岩島前会長

皆さん新年おめでとうございます。

本年は平成を使える最後の年であります。大きな災害はありましたが、戦争の無い平和な時代でした。

今年も戦争のない平和な年であるよう祈念し、我々プロビアンが健康でハツラツと楽しく干支のごとくワンダフルに過ごせますよう祈念して乾杯。

お客様のご挨拶

東京日野プロバスクラブ

奥副会長

新年明けましておめでとうございます。本日はお招き頂きありがとうございます。八王子プロバスクラブは芸達者が多いと聞いております。今日は私ども5人十分に楽しませて頂こうと思っています。

18日の新年会にはぜひお越しください。

東京多摩プロバスクラブ

澤副会長

新年明けましておめでとうございます。本日はお招き頂きありがとうございます。日本列島は今、寒気に見舞われ西の方は大雪のようですが東京は雨も雪も降らずに良い新年会が出来良かったです。

2~3日前に、ふと見上げて桜の枝を見ましたら冬芽が空に向かって真っすぐに立っているのが角度によってはピンク色に見えるんです。春を待って今一番寒い時に必要なエネルギーを蓄えているように見えました。

それで大寒は何時だろうと見ましたら後10日位でしたので、一番寒い時はすぐそこで終わり春に向っているのだと思いました。プロバスクラブは高齢の方が多くですが今のうちにエネルギーをため込んで、やがて来る春に良い活動が出来るよう頑張ってください。

そして お料理、お飲み物に、暫し歓談。

お楽しみ 寿大吉さん（下田会員）によるマジックアラカルトのはじまり。

始めに蝶の舞、二匹の華麗な舞—————。

そして花吹雪—————。

見とれてしまいました。

新聞紙と水、どうなっているのでしょうか？

見事な手品ですね。



次に田中会員のサクソ演奏に酔い痴れました。

「いい日旅立ち」
「上を向いて歩こう」
「いい湯だな」
アルトサクソに合わせて皆で楽しく歌いました。

アンコール「昴」は盛り上がりました。



♪ ♪ ♪
♪ ♪
♪ ♪ ♪
♪ ♪



声自慢によるカラオケ さすが同好会で鍛えていらっしゃるんですね。

最後は例年のごとく全員がお互いに手をつなぎ大きな輪を作り、夕やけ小やけの大合唱。



締め挨拶

馬場 副会長

楽しい新年会でした。皆様に感謝申し上げます。特に多摩・日野両クラブから多数のご出席を頂き大いに懇親を深めることが出来ました。本年もよろしくお願い申し上げます。

今夜は寒さが厳しいようです、気を付けてお帰り下さい。



◆誕生日 お祝いのカードを頂きます。82才。先ず健康に感謝しましょう。 下山 邦夫

◆今年もどうぞよろしくお願い致します。

皆様 健康に楽しいクラブライフを！！

2C 立川 富美代

◆なにはともあれ 明けましておめでとうございます。82才のこの年令まで生きていることはありがたく、しあわせです。 土井 俊玄

◆新年おめでとうございます。

今年も keep on going 前を向いて、進み続けましょう！！

杉山 友一

◆「ニューイヤー駅伝」で旭化成が優勝しました。今年も市田兄弟がやってくれました。田中 信昭

◆「3度目の開腹手術」をして半年、漸く「速足歩き」が出来るようになりました。然しまだ用心してサラシを巻いているので着物姿です。ズボンが穿け、スーツが着られる「満願の日」めざして頑張ります！！

山形 忠顯

◆正月 小学2年の孫娘連れて古都奈良の旅 今月末は新羅（シーラ）ホテルのソウルの旅へ行く予定

野口 浩平

◆明けましておめでとうございます。今年も宜しくお祈りします。今年9日で73才になりました。

年末年始に念願だった家族10人でハワイ旅行を楽しんできました。皆の喜ぶ顔を見てハッピー！

40才の息子が農工大の応用化学科の教授になりました。

2C 寺田 昌章

◆明けましておめでとうございます。年末からシンガポール、モルディブへ2週間行ってきました！娘家族と孫6人で、竜宮城のような海で身をすっかり清めて参りました。今年も宜しくお祈り致します。

持田 律三

◆年末年始「びおら」に届いている学習サロン申込はがきを取りに行く機会が重なりましたがそのたびに「いよいよだな」と。一人でも多くの参加者を期待しつつ。

一瀬 明

◆世界的に政情不安な昨今ですが、安定かつ幸福な一年となることを祈念します。

馬場 征彦

◆11月26日「いちょうホール」で開催された宇宙飛行士の大西卓哉さんの「宇宙そして未来へ」の講演に東京八王子プロバスクラブの協力とシニア・ダンデーズのコーラス等「ハッピー」であった。萩島 靖久 (前月号で誤記致し申し訳ございませんでした)



二度とない人生だから

八木 啓充

9月30日(土) 13時30分
開演の銅鑼が鳴り、ベースから元気よく舞台に歩き始めた。横浜グリークラブ第18回定期演奏会の始まりである。ここ、歌い慣れた「みなとみらい21大ホール」。第一声はクラブソング「横浜に朝が来る」。



7月も終わるころ、たまたま会った指揮者の松崎さんから今度の定演に参加しませんかと誘われた。演目は「柳河風俗史」、グノーの「第二ミサ」、愛唱歌「精霊流し、いい日旅立ち、時代、Wind&Roses」そして第4ステージは組曲「二度とない人生だから」である。横浜グリークラブは横国大グリーメンが歌い始め、そこに市大、早稲田、関学ほか市民一般の人が参加して活躍しているクラブで、今までにドイツをはじめ、オーストリア、ハンガリー、イタリア、オーストラリア、中国、ポルトガルなどに演奏旅行を行っている団体である。奥方同伴の旅行は、地元との国際交流も良い思い出となっている。

9月までに楽譜なしで歌えるか迷いながら、3年ぶりに練習場に顔を出してみた。「お帰りなさい」と皆に挨拶され、どっさりと楽譜を渡されて引っ込みがつかなくなった。次の練習日の帰りには歓迎会があり、もう絶体絶命だ。

それでも歌い切った後の爽快な気分と、横浜地ビールの店での打ち上げは、まさに「二度とない人生だから」であった。

さらに10月29日(MM21大ホール)には「横浜国大グリークラブ創部70周年記念演奏会」があり、現役・OBあわせて180人とオーケストラとでケルビーネの「レクイエム」を歌う大ステージが「二度とない人生だから」を飾った。思えば男声合唱を始めて60数年、あとどれだけ歌い続けることやら……。

生き甲斐に大切な「愛情のネットワーク」の形成

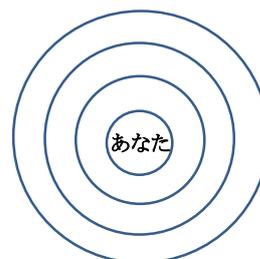
有田 進治

11月上旬に私ども夫婦と子供たち3家族の総勢12名の4家族合同で3泊4日の沖縄旅行に出かけてきた。これは、私の妻の古希祝を兼ねて、子供たちが計画してくれたものであった。もともと、妻は、子供たちや孫たち全員を連れて、一緒に泊まりがけの旅にでかけたいという夢をもっていた。やっと、一番下の孫も1歳となり、泊りの旅もできるようになり、妻の夢が実現できる運びになったのである。



残念ながら肝心の子供2人が旅行直前に海外出張等と重なり参加できなくなるというハプニングもあった。しかし、これも会社で重責を担う子どもたちの立場を思えば理解できないことでもない。子供たちが発案したこの4家族合同家族旅行は、次に述べる私なりの「家族観」を見事に具現化してくれたものであり、子供たちに大いに感謝しているのである。

米国ミシガン大学のカーンとアントヌッチにより実施された「愛情のネットワーク」という調査がある。



この調査は、図のような「あなた」と書かれた円と3重の同心円を画いて、①あなたにもっとも近い内側の円には、あなたにとって最も大切な人、その人なしの人生

を想像できないくらい非常に親密に感じている人を何人でも記入してもらう。

②2番目の円には、親しさの程度は減るが、なお重要な人々を。③3番目の円にはそれほど親しくない

ものの、やはり重要な人々を、と順に記入してもらおう。皆さんは、この3重の円のそれぞれに、どのような人を挙げられるでしょうか？是非一度、やっていただくことをお勧めします。

日本でも高橋恵子氏（当時、聖心女子大学名誉教授）がこの調査を行っている。

8歳から93歳までの合計1,800人余りの日本人男女を調査したところ、どの年齢でも、3つの円を合計すると平均7~8人であった。また、どの年齢でも第1の円に挙げた人数が最も多く、4人前後であり、第3の円の人数は平均1人で最も少なかった。欧米の調査結果でも、傾向は同じで年齢や文化による差は、余り生じていない。

この調査が私たちに教えてくれる大事なことは、重要な他者を数人持つという事である。

1の円に入る人が少ない方は、精神的に健康な生活を送るのに支障を来すことが多いとみられている。即ち、元気で生活するには、第1の円に入る強い絆を持つ人の存在が必要であるということである。多くの場合、家族持ちは、やはり第1の円に、家族の名前を挙げることが多いのではなかろうか。これが「家族が愛情のネットワークの最たるもの」と言われる所以でもあろう。私の場合も家族が第1の円に挙がる。しかし、家族であっても、努力なしでは、この強い絆は築けないようだ。よって絆を強める方策が必要となろう。子供たちが家から独立し、それぞれが家庭を設け、日常的に接することが物理的に難しくなった今こそ、意識して、少なくとも月に一回でも良いからお互いに会い、一緒に時間を共有し、共に食卓を囲むことが大事と思っている。また、できれば、年数回でも良いので、長期休暇等を活用し、全家族が一堂に集まり、数日を皆で過ごし、全家族のなかに「私たち」というファミリー意識を醸成することが大切と考えている。今回の沖縄への合同家族旅行は、この家族間の「愛情のネットワーク」強化のまたと無い良い機会となった。

一方、家族がいても第1の円に家族名を挙げない方もいるし、家族の形態も、年と共に変わってくる。また、家族のいない方も沢山いる。人は、それぞれである。大事なことは、自分の置かれた、それぞれの環境下で、自分の価値観に基づき、自分なりに必要な「愛情のネットワーク」をつくり続ける努力をする

ことであろう。プロバスクラブは、諸活動を通じて、会員間において、この重要な「愛情のネットワーク」づくりにも多大な役割を果たしていると私なりに理解をしている。



滞在ホテルの朝食デッキにて

同好会報告

写真クラブ

岡本 宝蔵

写真クラブの皆さんで御岳渓谷にて紅葉散策をして来ました

11月24日午前9時にJR八王子駅改札口前に矢島会員、下山会員、土井会員、武田会員、岡本会員5名が集合して青梅線でJR御嶽駅にて下車し、秩父多摩甲斐国立公園でも特に美しい渓谷で日本名水百選にも指定されて居て奥多摩の紅葉いざなう美しい渓谷の遊歩道を散策、色々な紅葉の表情や彩りを楽しみながらシャッターをパチリパチリと。川辺に眼を向けるとアウトドアでカヌーや黙々と釣り糸を垂らす釣り人等、様々な人達に出会いました。天候にも恵まれて約4kmの遊歩道渓谷美を堪能しながらJR沢井駅前の食事処「澤の井園」で昼食を取り蕎麦とビールを飲み、とても楽しい1日を過ごしながら15時頃には無事八王子戻って来ました。どの様な写真が撮れているか?皆さんにご披露する事がチョット心もとな



いですが。その節はどうぞよろしくご指導の程お願いします。

★冒頭のダイヤモンド富士の写真は高取会員からご提供頂きました。すばらしいですね。

つぶやき

杉山 友一

最近体調を崩している複数の会員さんから、毎月の例会もとかく欠席しがちで、そろそろ退会止む無しかと思案している旨が伝えられた。そこで小生は、会員として在籍するという基本的な意思さえあれば、会員の義務は会費の納入以外は出席欠席、参加不参加などを始めとして、出来るだけ制約を外した自由度 100%が望ましいのです、と応答しました。

プロバスクラブは本来任意の組織で、現役時代の長い人生行路も文字通り千差万別の高齢者が会員です、ときには男女の違いもあるかもしれませんが、制約条項は少ないほどベターです。しかしながら、とは云っても、それでは運営を担当する執行部が機能できませんから、出欠の事前連絡など幾つかの最低限のお願い事だけは守って頂かないといけません。そんなレベルで考えてみると、会員の基本的な義務事項の割合は 20%程度かなと考えられます。

クラブは「親睦と研鑽」・「地域奉仕」と大きく旗印を掲げながらも、自由度 80%の「違いの分かる人たち」の集まりという気軽な認識を、ここらで改めて共有できないかと考えています。因みに、体調管理中のご本人は、もとより金銭の問題ではありませんからということで、アクティブ会員の資格を継続し体力気力を勘案しながら出られるときに出来ますという話し合いになっています。毎月の「プロバスだより」等々の情報交換ツールを駆使して、お互いさまに障害を受容しながら、ゆっくり・ゆったり Keep on going 前に進み続けたいものです。

★ 中国側ベースキャンプから眺めるエヴェレストの黎明
(撮影：矢島一雄会員)



俳句同好会便

私の一句～一月の句会から 河合 和郎

新年句会には迫力のある句が多く、皆さんの意気込みが感じられた。今年も「ゆうやけ第五号」の句集が発刊される。どんな佳句が揃うか楽しみである。

気が付けば破れ障子で年を越し 東山 榮

春風駘蕩大人の一句。年用意が十分に出来なかった事情は言わず、「気が付けば」のとぼけがいい。

まだ覚めぬ嶺に音立て初日射す 矢島 一雄

初日の陽光が山稜を染めて輝く一瞬を「音立て初日射す」と表現。荘厳な大自然の営みを活写。

いつの世も巡る禍福よ初詣 池田ときえ

「禍福は糾える縄の如し」とか。それでも神仏に幸福を願うのが人情。今年も幸多からんこと。

入ってたんせ姉妹誘ふ雪の洞 田中 信昭

「かまくら」は秋田県横手地方の正月行事。上五の呼びかけがいい雰囲気盛り上げている。

平和の灯永久に消さじと初御空 飯田富美子

「平和な時代がいつまでも続きますように」と新年に祈る。きな臭い世界の混沌を憂う万民の願い。

ゆるっと行こ今年の春も一人酒 立川富美代

慌てず騒がずのマイペースの作者らしい悟りの一句。しかし「一人酒」にちょっぴりの哀愁も。

冬嵐波濤にかすむ岬かな 馬場 征彦

荒れ狂う冬嵐の光景が目につかぶ。大波に対岸の岬が翻弄されている。一景を詠んで迫力がある。

雪山の遠き灯火西穂高 渋谷 文雄

山男の一句と思いきや。昨年穂高への吟行の風景に雪と灯を重ねた。写生句は心の中に四季がある。

雪地獄五尺下ろして五尺掘り 山形 忠顯

雪との戦いは無限。「雪地獄」とは言い得て妙。五尺・五尺の繰り返しにも臨場感がある。力強い佳句。

灯台の明滅寒の闇を切る 河合 和郎

十二月の兼題は灯。闇を切り裂く灯台の明滅が浮かんだ。灯台のある風景には不思議な魅力がある。

編集後記：今月号 急きよ担当することになりまして大変戸惑いました。

皆様のご協力ありがとうございました。

編集担当者 有泉裕子